

## アジアナ航空 214 便事故の N T S B 事故報告要約と報道

N T S B (NATIONAL TRANSPORTATION SAFETY BOARD) の事故報告要約  
「Crash of Asiana Flight 214 Accident Report Summary」  
<http://www.nts.gov/news/events/2014/asiana214/abstract.html>

(報道より)

○日経新聞 「自動操縦に過度に依存」 アシアナ機事故で米当局見解 2014/6/25 11:51

【ワシントン＝共同】昨年7月に米サンフランシスコ国際空港で起きた韓国アシアナ航空機の着陸失敗事故について、米運輸安全委員会 (N T S B) は24日、機長らが速度の監視を怠るなど「自動操縦に過度に依存した」ことが主な原因とする調査結果の概要を発表した。

同時に、自動操縦装置が複雑化していることを指摘。A P通信によると、ハートN T S B 委員長代理は安全性を向上させるための装置が逆に操縦ミスを招く余地を与えていると語った。

事故を起こしたボーイング777型機は着陸する際、必要な速度と高度が不足し、機体後部が滑走路端の護岸に接触。胴体着陸した後に出火し、3人が死亡した。うち1人は駆け付けた緊急車両にはねられたことが原因だった。

N T S Bによると機長らは着陸態勢に入った際、高過ぎた高度を下げようと不適切な操作をし、速度を自動的に維持する装置が切られた状態となった。しかし機長らは自動操縦が機能していると思い込み、速度の監視を怠ったため、気付いたときには着陸をやり直すことができなかった。

N T S Bは他の操縦士が機長への進言をためらうコミュニケーションの欠落や、手動による操縦訓練の不足なども問題点として挙げた。

○A F P アシアナ機の着陸失敗事故、「自動操縦への頼り過ぎ」が一因

2014年06月25日 14:42 発信地: ワシントンD.C./米国



【6月25日 AFP】米運輸安全委員会 (National Transportation Safety Board、NTSB) は24日、昨年7月に米サンフランシスコ (San Francisco) で発生した韓国アシアナ航空 (Asiana Airlines) 機の着陸失敗事故に関する公聴会で、事故原因として操縦士が自動操縦に頼り過ぎていたことなどを挙げた。

アシアナ航空214便のボーイング (Boeing) 777 型機は昨年7月6日、着陸の際に護岸に衝突して炎上。中国人の若者3人が死亡し、182人が負傷した。米国で発生した民間航空機事故としては2009年以来のものとなった。事故当日の天気は晴れで、視界も良好だった。

首都ワシントンD.C. (Washington D.C.) で行われた公聴会でNTSBのクリストファー・ハート (Christopher Hart) 副委員長は、「搭乗していたのは安全面でも高い実績を持つ熟練した乗務員だったが、同機に搭載されていた自動化されたシステムについて誤解があった」と述べた。

事故調査官らは、機体がサンフランシスコ空港に向けて着陸態勢に入った時点で、イ・ガングク (Lee Kang-Kuk) 機長が自動操縦装置のスイッチを切っていたことを明らかにした。機長は操縦する機体をエアバス (Airbus) A320 型機から、より大型のボーイング777型機に移行するための訓練中だった。

NTSB のビル・イングリッシュ (Bill English) 主任調査官は、自動操縦装置のスイッチを切ったことで速度を自動的に維持する「オートスロットル」装置も解除された状態となり、機体の速度を自動的に維持することができなくなったと述べた。

NTSB は、機体が適切な進入経路（グライドパス）より下がったため、機長が機首を上げて機体を上昇させようと試みたものの、オートスロットルが解除されていたために思うようにエンジン出力が上がらず、滑走路に到達することができなかったと説明した。

事故の責任追及はしないことになっている NTSB は、操縦ミスを犯したとアジアナ航空機の操縦士をあからさまに批判することはせず、事故につながった要因として、ボーイング777型機のオートスロットル装置の他、操縦士の疲労や、太平洋を横断する10時間半のフライトでの時差ぼけなど多様な事項を挙げた。(c) AFP/Robert MACPHERSON